

漁況予報 いわし

第 1 1 1 号

2002年 5～6 月漁期
(2002年5月 7 日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における3月のマイワシ漁況は、総漁獲量6トンで昨年同期の5分の1しかありませんでした。しかも、このうち5トンは鎌倉地区での漁獲であり、他の定置網には殆ど漁獲がない状況でした。4月に入っても、この状況は変わらず、どの定置網も数kg/日程度の漁獲で推移しました。

中型まき網(4統)も1ヶ統で3月中旬に1日だけ混じりで10kg程度漁獲があっただけで、あとは3・4月通して皆無でした。

3月の全国における漁獲量は、太平洋側で極めて少なかった昨年同期を上回ったものの、九州・日本海側で昨年同期を下回り、全体として昨年の9割程度に留まりました。

【かたくちいわし】

主要定置網における3月のカタクチイワシ漁況は、全般的に昨年同期を上回る状況となりました。金田地区(1統)では、連日、数百kgレベルの水揚げが続き、毘沙門地区では24日に2トン超、西湘地区でも米神・真鶴で下旬に2日間2トン前後/日のまとまった漁獲がありました。4月に入っても好漁は続いており、金田地区(1統)では3月同様、連日、数百kgレベルの水揚げが続き、毘沙門地区でも7日に3トン超、25～27日には大磯～米神地区で2～7トン/統/日のまとまった漁獲があり、鎌倉地区では30トン/月を超える漁獲となりました。

佐島地区のまき網は、3月9日にまとまった漁獲があり、4月には上旬に連日漁獲があり、いずれも餌イワシとして生簀に活かしています。なお、現在のところ、カツオ漁の状況が悪く、カツオ船の買いも例年に比べ鈍いようです。

【しらす】

3月11日に解禁になった相模湾のシラス漁ですが、予測どおり昨年以上に低調なスタートになってしまいました。これは、漁獲の主体となるカタクチシラスの親魚資源量が非常に少ないことに加え、黒潮がN型で推移したため沖合系水が相模湾に流入しにくく、沖のシラスが来遊しにくい状況が重なったことが主な原因と考えられます。

解禁後しばらくはマシラスとカタクチシラスの混じりで、全長20mm前後の小型のシラスが主体でした。4月に入り、徐々にマシラスの混獲量は減り、中旬以降はカタクチシラス主体となっています。漁獲量は江ノ島周辺を除いて100kg/統/日獲れる日が多くなってきました。

今後は、黒潮も4月下旬から蛇行型に変化してきていることから、5月には全域で本格的な漁期入りになると期待されますが、総漁獲量は昨年を下回るでしょう。

＝ 予 報 ＝

過去5年の5・6月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

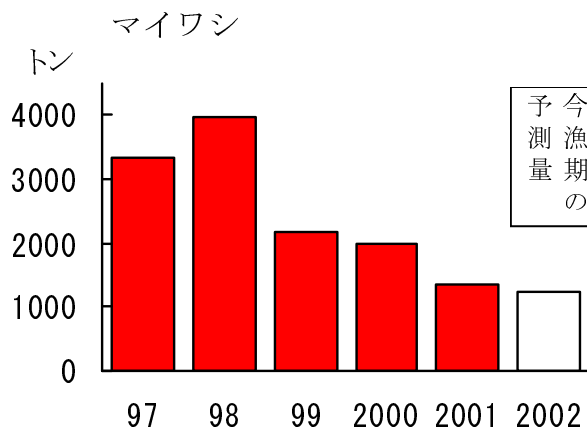
まいわし

今漁期は、産卵後の索餌北上群が漁獲の主体となります。

しかし、マイワシ大羽の資源量は年々減少していることから、北上群の来遊時期は遅れ、漁獲量も1998年をピークに減少傾向にあります。

今漁期の漁獲量は、約1,250トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網＋まき網

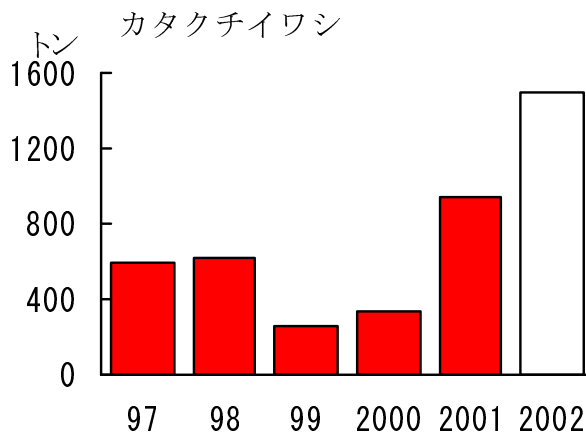


かたくちいわし

今漁期は、大型成魚が漁獲の主体となります。

前漁期まで成魚が昨年以上に来遊しており、今漁期もその傾向が持続すると思われます。

今漁期の漁獲量は、約1,500トンと予測されます。



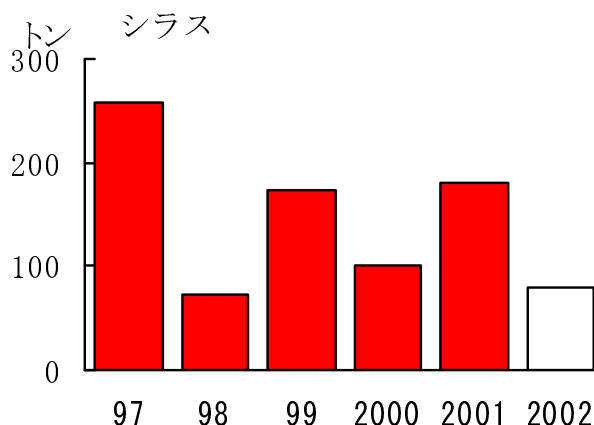
しらす

今漁期は、4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

今年は、親魚の資源量が少ないため解禁後、低調に推移していますが、今漁期前半には漁期入りとなるでしょう。

ただし、漁獲量そのものは昨年を下回ると思われます。

今漁期の漁獲量は、約80トンと予測されます。



神奈川県水産総合研究所 資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (0468-82-2313)